



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月7日

上場会社名 丸大食品株式会社
 コード番号 2288 URL <https://www.marudai.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 佐藤 勇二
 (氏名) 加藤 伸佳
 TEL 072-661-2518

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	171,284	1.1	78		214	75.9	231	67.5
2022年3月期第3四半期	169,358	2.3	595	2.8	890	0.4	713	34.7

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 329百万円 (%) 2022年3月期第3四半期 341百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	9.23	
2022年3月期第3四半期	28.21	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	142,089	74,783	52.2	2,961.95
2022年3月期	128,903	75,489	58.1	2,969.87

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 74,109百万円 2022年3月期 74,830百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期				30.00	30.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	222,000	1.6	1,200		700		500		19.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	26,505,581 株	2022年3月期	26,505,581 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,484,982 株	2022年3月期	1,308,897 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	25,117,294 株	2022年3月期3Q	25,310,530 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の波が繰返し到来するなかで、感染防止と経済活動の両立を目指して行動制限の緩和を行うほか、各種政策等の効果もあり、個人消費など緩やかに持ち直しの動きが続きました。しかしながら、世界的な金融引締め等が続くなか、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなるほか、物価上昇や供給面での制約、金融資本市場の変動など、景気の先行きは予断を許さない状況となっております。

当業界におきましては、外食需要に回復の動きが見られるものの、急激な円安進行も加わり原材料やエネルギーなどの製造コストが上昇するなかで、食料品や日用品をはじめとする生活必需品の相つぐ値上げなどから、消費者の節約志向が一層強まるなど、厳しい環境が続いております。食肉相場におきましては、国産牛肉は、価格上昇の影響などにより需要が減少したことなどから、前年を下回って推移する一方で、米国産牛肉・豚肉は為替相場の影響等により、輸入価格は高値で推移しております。また、国産豚肉は、輸入豚肉の価格上昇などの影響から需要が高まり前年を大きく上回って推移してはいましたが、足もとの相場は落ち着きをみせはじめております。

このような状況のなか、当社グループは、お客様に、より安全でより安心して召し上がっていただける食品を提供する総合食品メーカーとして、真に社会的存在価値が認められる企業を目指し、企業活動を推進してまいりました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同期比1.1%増の1,712億84百万円、営業損失は78百万円（前年同期は営業利益5億95百万円）、経常利益は前年同期比75.9%減の2億14百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比67.5%減の2億31百万円となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりであります。

【セグメント別業績】

(単位：百万円)

	売上高 (注)			セグメント利益又は損失 (△)		
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
加工食品事業	114,824	113,585	△1,238 (△1.1%)	200	△482	△682 (-)
食肉事業	54,420	57,599	3,178 (5.8%)	356	363	6 (1.9%)
その他	114	100	△13 (△12.2%)	39	40	1 (3.1%)
合計	169,358	171,284	1,925 (1.1%)	595	△78	△674 (-)

(注) 売上高には、セグメント間の内部売上高は含まれておりません。

【加工食品事業 売上高内訳】

(単位：百万円)

	売上高		
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (増減率)
ハム・ソーセージ	52,453	50,305	△2,147 (△4.1%)
調理加工食品	62,370	63,279	908 (1.5%)

① 加工食品事業

ハム・ソーセージ部門では、「燻製屋熟成あらびきポークウインナー」や「いつも新鮮ロースハム」の主力商品を中心に、「LINEポイントプレゼント スタンプラリーキャンペーン」などの販促活動を実施し拡販に努めました。また、人気の調味料「クレイジーバジル」を使った「クレイジーバジルあらびきウインナー」などの新商品や「サッカー日本代表オフィシャルライセンス商品」として期間限定でウインナーや生ハムなどを発売し、売上拡大を図りました。歳暮ギフトにつきましては、「王覇」「煌彩」シリーズを中心に拡販に努めました。これらの施策を行いました。価格改定による消費者の節約志向が高まり販売数量が減少したことなどから、当部門の売上高は前年同期比4.1%の減収となりました。

調理加工食品部門では、レトルトカレー商品は、「ビストロ倶楽部ビーフカレー」シリーズを中心に拡販に努めたことや、「シェフの匠」シリーズからは期間限定で「シェフの匠ポークジンジャーカレー」を発売し売上拡大を図りました。また、健康志向のニーズに合致した「サラダチキン」シリーズの売上高が前年を上回ったほか、人気の韓国風チキンをうちで手軽に簡単に食べられる「押しチキ」シリーズなどの新商品を投入したことに加え、コンビニエンスストア向け米飯商品や、ホイップ済みクリームの高額が堅調に推移したことなどから、当部門の売上高は前年同期比1.5%の増収となりました。

以上の結果、加工食品事業の売上高は前年同期比1.1%減の1,135億85百万円となりました。また、価格改定の実施や合理化によるコスト削減に努めましたが、ハム・ソーセージ部門の減収や価格改定を上回る原材料・エネルギーコストの上昇などから、4億82百万円のセグメント損失（前年同期は2億円の利益）となりました。

② 食肉事業

牛肉につきましては、消費者の節約志向の高まりから量販店向け国産牛肉の販売が低調に推移したものの、外食産業向け販売に回復がみられたことなどから、牛肉全体の売上高は前年を上回りました。豚肉につきましては、量販店向け販売単価の上昇や外食産業向け販売が伸長したことなどから、国産、輸入ともに、売上高は前年を上回りました。鶏肉につきましては、販売単価が上昇したことなどから、売上高は前年を大きく上回りました。

以上の結果、食肉事業の売上高は前年同期比5.8%増の575億99百万円となりました。セグメント利益は、仕入価格の大幅な上昇などの影響もありましたが、外食産業向け販売が寄与し、前年同期比1.9%増の3億63百万円となりました。

③ その他事業

その他事業の売上高は前年同期比12.2%減の1億円、セグメント利益は前年同期比3.1%増の40百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

〔連結財政状態〕

(単位：百万円)

	前連結会計年度末	当第3四半期 連結会計期間末	増減額
総資産	128,903	142,089	13,185
負債	53,414	67,306	13,891
純資産	75,489	74,783	△705
自己資本比率	58.1%	52.2%	△5.9%

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形及び売掛金が96億83百万円、原材料及び貯蔵品が23億84百万円、商品及び製品が16億64百万円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ131億85百万円増加し、1,420億89百万円となりました。

負債は、有利子負債が59億83百万円、支払手形及び買掛金が56億78百万円、未払金が18億90百万円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ138億91百万円増加し、673億6百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益2億31百万円の計上がありました。剰余金7億55百万円の配当や自己株式2億76百万円の取得などから、前連結会計年度末に比べ7億5百万円減少し、747億83百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末から5.9%低下し、52.2%となりました。

〔連結キャッシュ・フローの状況〕

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,197	△1,328	△2,526
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,537	△3,006	530
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,478	4,411	1,933
現金及び現金同等物の増減額	138	76	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,614	8,066	△548

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費の計上がありました。運転資金の増加による減少要因などから13億28百万円減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却や固定資産の売却による収入がありました。生産設備の増強・合理化や品質向上のための固定資産の取得による支出などから、30億6百万円減少しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや自己株式の取得による支出がありました。有利子負債の増加などから、44億11百万円増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度末から76百万円増加し、80億66百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の連結業績予想につきましては、2022年11月11日の「業績予想の修正及び配当予想の修正、特別利益（投資有価証券売却益）の計上に関するお知らせ」にて公表した見通しから変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,990	8,066
受取手形及び売掛金	23,436	33,120
商品及び製品	11,227	12,892
仕掛品	464	431
原材料及び貯蔵品	5,181	7,565
その他	1,522	1,860
貸倒引当金	△10	△17
流動資産合計	49,813	63,920
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	62,794	63,678
減価償却累計額	△44,958	△45,947
建物及び構築物 (純額)	17,836	17,731
機械装置及び運搬具	73,270	75,524
減価償却累計額	△56,785	△59,275
機械装置及び運搬具 (純額)	16,485	16,248
工具、器具及び備品	4,991	4,803
減価償却累計額	△3,505	△3,480
工具、器具及び備品 (純額)	1,485	1,322
土地	18,722	18,665
リース資産	9,205	9,299
減価償却累計額	△4,149	△4,455
リース資産 (純額)	5,055	4,844
建設仮勘定	500	983
有形固定資産合計	60,085	59,795
無形固定資産		
投資その他の資産	2,267	1,754
投資有価証券	11,718	11,594
関係会社株式	218	250
長期貸付金	16	17
退職給付に係る資産	2,130	2,375
繰延税金資産	319	276
その他	2,463	2,228
貸倒引当金	△129	△124
投資その他の資産合計	16,737	16,619
固定資産合計	79,090	78,169
資産合計	128,903	142,089

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,913	26,592
短期借入金	8,100	15,930
1年内返済予定の長期借入金	2,817	2,337
リース債務	1,084	1,040
未払金	6,216	8,106
未払法人税等	171	193
未払消費税等	308	270
賞与引当金	810	268
その他	1,308	1,987
流動負債合計	41,729	56,725
固定負債		
長期借入金	4,551	3,395
リース債務	4,118	3,951
繰延税金負債	992	1,158
退職給付に係る負債	1,378	1,439
その他	644	635
固定負債合計	11,685	10,580
負債合計	53,414	67,306
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,716	6,716
資本剰余金	22,086	22,086
利益剰余金	44,132	43,608
自己株式	△3,066	△3,342
株主資本合計	69,868	69,068
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,990	5,061
繰延ヘッジ損益	71	△0
為替換算調整勘定	33	59
退職給付に係る調整累計額	△133	△79
その他の包括利益累計額合計	4,962	5,041
非支配株主持分	658	673
純資産合計	75,489	74,783
負債純資産合計	128,903	142,089

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	169,358	171,284
売上原価	143,459	146,822
売上総利益	25,899	24,462
販売費及び一般管理費	25,303	24,541
営業利益又は営業損失(△)	595	△78
営業外収益		
受取利息	14	12
受取配当金	179	179
不動産賃貸料	124	111
その他	203	202
営業外収益合計	522	507
営業外費用		
支払利息	166	168
その他	60	44
営業外費用合計	227	213
経常利益	890	214
特別利益		
固定資産処分益	131	117
投資有価証券売却益	429	643
特別利益合計	561	760
特別損失		
固定資産処分損	256	141
減損損失	9	116
投資有価証券評価損	29	—
特別損失合計	294	258
税金等調整前四半期純利益	1,156	717
法人税、住民税及び事業税	272	269
法人税等調整額	142	197
法人税等合計	414	466
四半期純利益	741	250
非支配株主に帰属する四半期純利益	28	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	713	231

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	741	250
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,136	71
繰延ヘッジ損益	△16	△71
退職給付に係る調整額	76	53
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	25
その他の包括利益合計	△1,082	79
四半期包括利益	△341	329
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△369	310
非支配株主に係る四半期包括利益	28	19

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,156	717
減価償却費	5,859	5,712
減損損失	9	116
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5	1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△242	△112
受取利息及び受取配当金	△193	△192
支払利息	166	168
投資有価証券売却損益 (△は益)	△429	△643
投資有価証券評価損益 (△は益)	29	—
固定資産処分損益 (△は益)	124	24
売上債権の増減額 (△は増加)	△9,133	△9,681
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△2,626	△4,005
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,859	5,692
未払消費税等の増減額 (△は減少)	9	△37
未払金の増減額 (△は減少)	1,190	1,467
その他	△727	△570
小計	1,058	△1,344
利息及び配当金の受取額	348	369
利息の支払額	△157	△159
法人税等の支払額	△297	△333
法人税等の還付額	449	159
特別退職金の支払額	△204	△19
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,197	△1,328
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△29	△29
投資有価証券の売却による収入	681	895
固定資産の取得による支出	△4,679	△4,224
固定資産の売却による収入	647	403
その他	△156	△51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,537	△3,006
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	5,892	7,830
長期借入金の返済による支出	△1,564	△1,635
リース債務の返済による支出	△714	△746
配当金の支払額	△762	△755
自己株式の取得による支出	△368	△276
その他	△3	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,478	4,411
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	138	76
現金及び現金同等物の期首残高	8,476	7,990
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,614	8,066

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
ハム・ソーセージ	52,453	—	52,453	—	52,453	—	52,453
調理加工食品	62,370	—	62,370	—	62,370	—	62,370
食肉事業	—	54,420	54,420	—	54,420	—	54,420
その他	—	—	—	114	114	—	114
顧客との契約から 生じる収益	114,824	54,420	169,244	114	169,358	—	169,358
外部顧客への売上高	114,824	54,420	169,244	114	169,358	—	169,358
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	578	578	△578	—
計	114,824	54,420	169,244	692	169,937	△578	169,358
セグメント利益	200	356	556	39	595	—	595

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行業等を含んでおりません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、第3四半期連結累計期間においては9百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	加工食品 事業	食肉事業	計				
売上高							
ハム・ソーセージ	50,305	—	50,305	—	50,305	—	50,305
調理加工食品	63,279	—	63,279	—	63,279	—	63,279
食肉事業	—	57,599	57,599	—	57,599	—	57,599
その他	—	—	—	100	100	—	100
顧客との契約から 生じる収益	113,585	57,599	171,184	100	171,284	—	171,284
外部顧客への売上高	113,585	57,599	171,184	100	171,284	—	171,284
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	656	656	△656	—
計	113,585	57,599	171,184	756	171,941	△656	171,284
セグメント利益又は 損失(△)	△482	363	△119	40	△78	—	△78

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代行業等を含んでおりません。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各セグメントに帰属しない賃貸等不動産及び美術品について、回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては116百万円であります。